（様式３号）

学　位　論　文　の　要　旨

氏名　宮本　いずみ

〔題名〕

手術室看護師の看護実践能力を高める教育プログラムの構築

〔要旨〕

手術室看護師の看護実践能力を高める教育プログラムを構築するために３つのアプローチによる研究を実施した。

【研究 1】

手術室看護師の看護実践能力評価尺度を作成し，手術室看護師 987 名に質問紙調査を行った。探索的因子分析の結果，手術室看護師の看護実践能力は【器械出し看護実践】,【外回り看護実践】,【教育と管理】,【研究】,【倫理】の 5 因子 33 項目の構造を認め，概ね信頼性と妥当性を有していた。

【研究 2】

手術室看護師の看護実践能力を高める教育的要因を明らかにする目的で，手術室看護師に看護実践能力と教育的要因の質問紙調査を行い，860 名の回答を階層的重回帰分析した結果，手術室看護師の看護実践能力を高める影響要因として教育背景，手術看護経験，手術看護に関する資格，教育計画，教育内容，院外研修が明らかになった。

【研究 3】

手術室看護師が認識している看護実践能力を高める効果的な継続教育を明らかにする目的で，手術室看護師に「手術室看護師の看護実践能力を高める効果的な教育」を問う自由記述回答からなる質問紙調査を行った。324 名の回答を計量テキスト分析した結果，看護実践能力を高める効果的な継続教育として【プリセプターシップと診療科別チーム制による教育体制】【多くの教育人材】【術式別手順書や評価基準を用いた統一・標準化した教育】【個別の能力に応じた教育】【術式別手順書と視聴覚教材を用いた教育】【手術後の振り返りや評価】【シミュレーションなどの実践的な教育】【手術看護に関する学習の機会】【医師による勉強会】の 9 概念が創出された.

【結論】

研究 2 と研究 3 の結果から導き出された手術室看護師の看護実践能力を高める教育的要因から教育体制・組織的支援，教育計画，教育方法，教育内容，評価，勉強会・研修を骨子とした手術室看護師の看護実践能力を高める教育プログラムを構築した。

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第1676号	氏　名	宮本　いずみ

論文審査担当者	
	主査教授　田中 愛子
	副査教授　伊東美佐江
	副査教授　山勢　博彰

学位論文題目名　（題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。）

手術室看護師の看護実践能力を高める教育プログラムの構築

学位論文の関連論文題目名　（題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。）

手術室看護師の看護実践能力評価尺度の開発

掲載雑誌名　日本クリティカルケア看護学会誌
Vol. 17, pp. 80-88 （ 2021 年掲載・掲載予定）

（論文審査の要旨）

申請された学位論文は、手術室看護師の看護実践能力を評価する尺度を作成し実践能力を測定するとともに、実践能力を高める教育プログラムの構築を目的とし、大きく以下の４つの段階から構成されている。

【研究１】

手術室看護師の看護実践能力に関する研究の動向と課題を、文献を通して論じた。20 年間に登録されている文献 180 件を選定し、14 件に絞り、先行研究に示されている看護実践能力を明らかにした。また、本探究を通して、本邦における看護実践能力に関する研究は 3 件のみであり、この領域に関する研究の重要性とともに、看護実践能力評価の尺度開発の必要性を明らかにした。

【研究２】

研究１の課題を基盤とし、研究２では手術室看護師の看護実践能力評価尺度の開発が行われた。文献から 33 項目の看護実践能力を抽出し、857 人の有効回答をもとに、信頼性妥当性の検討を行い、33 項目すべてが看護実践能力を測定する尺度として適応することがわかった。この成果は日本クリティカルケア看護学会誌原著論文として公表されている。

【研究３】

研究３では、研究２で開発された尺度を用いた手術室看護師の看護実践能力の評価およびそれに影響を与える要因分析から「手術室看護師の看護実践能力に影響する教育的要因を明らかにする研究」が行われた。その結果、教育背景、手術看護経験、教育計画等が、看護実践能力を高める結果に影響していることがわかった。

【研究４】

研究４では、手術室看護師の看護実践能力を高める効果的な教育に関する 320 名の自由回答を、テキストマイニングを用いて分析し、教育プログラム内容を構築した。それらは、教育支援体制、教育の展開方法、学習の機会の 3 側面に整理され、自由回答データに基づいて、効果的なプログラム内容が作成された。この成果は原著論文として採択されている。

一連の研究は、最終的に手術室看護師の看護実践能力を高める教育プログラムの構築を目指したものであり、研究２、３、４を明らかにすることで、プログラム構築できることを見据えての研究デザインであった。手術室という専門的かつ特殊な環境から一般的な教育方法の確立が難しい状況において、本研究の成果は、手術室看護師の看護実践能力を測定し、プログラムによって高めることができるものであり、臨床への貢献は顕著であると思われる。

審査委員会は、申請された学位論文が博士（保健学）にふさわしい価値あるものと認める。

以上

備考　審査の要旨は８００字以内とすること。